

資料 3

令和4年度(2022年度)熊本県立美術館運営ビジョンの取り組み状況について

令和4年度（2022年度）
熊本県立美術館運営ビジョン自己評価報告

< 目 次 >

I	熊本県立美術館運営ビジョンの概要	1
II	自己評価の概要	
(1)	運営ビジョン自己評価の趣旨	2
III	施策についての自己評価	3
1	子どもの頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館	4
2	熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館	9
3	地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館	14
4	安全・安心でやすらぎと憩いの場を提供する美術館	17

I 熊本県立美術館運営ビジョンの概要

基本理念

運営の基本方針

推進期間

2020年度～2023年度
令和2年度～5年度

熊本の宝を守り活用し、
誰もが楽しめる美術館

- 1 【展覧会・教育普及】子どもの頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館
- 2 【美術品等の収集・保管・研究】熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館
- 3 【地域活性化・交流促進】地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館
- 4 【環境・施設整備】安全・安心でやすらぎと憩いの場を提供する美術館

1 子どもの頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館

子どもの頃から豊かな心を育み、五感を使った体験活動等を通し、感性を磨き、感動できるような場の提供。また、美術の多様な見かたや楽しみ方を通し、多様性を尊重できる環境づくりを目指すとともに、海外等からの来館者対応の一層の充実と多様な人々の交流を促進。

(1) 展覧会活動

- 総合美術館としての展覧会の充実
- 県民ニーズに対応した鑑賞機会の充実
- グローバル化への対応
- with コロナ・post コロナ社会への対応

(2) 教育普及活動

- ① 学校や地域と連携した活動の充実
 - 鑑賞・体験活動
 - 活用プログラム等の提案・情報提供による美術学習支援
- ② 幅広い年齢層が美術に親しむための取組み
 - 美術図書や資料の閲覧スペースの整備
 - 創作・発表の場としての支援活動
 - 美術館友の会・サポートボランティアとの連携
- ③ インターネット美術館の推進

2 熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館

永青文庫や熊本ゆかりの優れた美術品等の散逸を防ぎ、調査研究し、熊本の宝として未来に継承するとともに、文化財の災害対策を推進。

(1) コレクションの充実

- 美術品等の計画的な収集・保管・公開

(2) 収蔵品の調査研究・成果の公開・活用

- 調査研究等
- 研究成果の公開・活用

(3) 県内美術品等の調査研究と文化財保存活動

(4) 専門性を支える人材の確保

(5) 専門性を高める取組み

3 地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館

地域との交流や他の文化観光施設との連携により、魅力あるまちづくりを推進。また、県民の美術館活動への関心と理解を深めるとともに、交流人口の拡大を図るため、展覧会や各種活動に関する積極的な情報発信。

(1) 熊本城周辺文化観光施設としての活動

(2) 団体集客の推進

(3) 美術館活動の情報発信

4 安全・安心でやすらぎと憩いの場を提供する美術館

来館者にとってやすらぎと憩いの場となる美術館をめざす。展覧会の鑑賞のみならず、来館者が美術館という空間を快適に楽しめるよう、ホスピタリティの向上推進。

(1) 施設の適切な管理と快適な環境の整備

- 安全・安心の確保
- ユニバーサルデザインの推進
- 誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の創出
- 付帯施設
- ミュージアムショップの充実

(2) 施設の有効活用

(3) 来館者満足度の向上

- 展覧会やサービスに関する評価に基づく改善

(4) 経営的視点による運営・管理

- 収益の向上等

(5) ビジョンの指標と自己評価

- 美術館の利用者数
- ビジョンに掲げた事業の自己評価

Ⅱ 自己評価の概要

(1) 運営ビジョン自己評価の趣旨

当館では『熊本県立美術館運営ビジョン』（令和3年3月）を策定し、第4章「環境・施設整備」（5）「ビジョンの指標と自己評価」において、「外部意見等を踏まえ、自己評価を実施」と位置づけていることから、本協議会に報告し、今後の運営の改善と充実を図るため意見を求めるものです。

○運営ビジョンにおける目標数・・・R5年度総入館者数152,470人（無料スペース利用者も含む）

○美術館本館の入館者数

R4 271,637人
R3 78,159人
R2 89,819人
R元 130,880人

○美術館本館の入場者数

年度等		企画展	共催展	貸会場	計
R4	入場者数	38,955人	221,517人	5,572人	267,264人
	開催回数	8回	3回	5回	16回
	開催日数	延べ531日	延べ152日	延べ46日	延べ729日
R3	入場者数	11,399人	19,262人	5,182人	35,843人
前年度比		+241.7%	+1,050%	+7.5%	+645.7%

*【参考】令和3年度休館期間：4月24日～6月27日（コロナの影響）及び9月13日～12月24日（改修工事）

自己評価シート

1	【展覧会・教育普及】 子どもの頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館
(1)	展覧会活動

1 事業の実績

- <総合美術館としての展覧会の充実>
特別展として「印象派との出会い」展、「美の旅」展、「ジブリパークとジブリ」展を開催。また4つの美術館コレクション展や、3つの細川コレクション展を開催した。「印象派との出会い」展は新型コロナウイルス感染拡大以前の水準まで来館者数が戻り、「美の旅」展ではそれを上回る結果となった。さらに「ジブリパークとジブリ」展は過去最高の来観者数を得た。また、細川コレクション展として開催した「雅—細川家の歴史と美」展では、オンラインゲーム「刀剣乱舞ONLINE」とのコラボレーションにより、過去最高となる1万人を超える来観者を得た。
- <県民ニーズに対応した鑑賞機会の充実>
子どもから大人まで楽しめるよう、各イベントを企画。幅広い世代の鑑賞機会の充実として、ミュージアムセミナーを6回、特別講演会を2回開催。また小中学生向けワークショップ「子ども美術館」を3回実施した。さらに、家族で楽しめるワークショップ「かぞくでアート」を4回開催した。その他、文化の日に合わせて「くまもと教育の日親子無料デー」を1回、月曜日の特別開館日には手話通訳によるギャラリートークを2回実施。美術館コレクション「“表情”でみる美術」では、参加型鑑賞スペースを設置した。
- <グローバル化への対応>
美術館・細川コレクション展の展覧会スケジュールを、英語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語に翻訳し、美術館HP上で公開した。
- <withコロナ・postコロナ社会への対応>
国及び県等の方針に基づき、来館者の検温・手指消毒・マスクの着用など安全・安心な環境づくりに取り組んだ。

2 工夫と成果・課題等

<p>取組において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <総合美術館としての展覧会の充実> 西洋美術、日本近代美術、アニメなど、多種多様なジャンルによる展覧会を開催した。 ○ <県民ニーズに対応した鑑賞機会の充実> 大人向け（ミュージアムセミナー・特別講演会）、子ども向け（子ども美術館）、家族向け（かぞくでアート）と、年齢層に合わせたイベントを企画・開催した。また、文化の日には親子が美術館へ興味をもつていただけるよう親子無料デーを実施、併せて甲冑レプリカを活用したイベントを開催。美術館コレクション「“表情”でみる美術」では、参加型鑑賞スペースを設置し、来館者の考えを見える化することで来館者同士の心の交流の場とした。オンラインゲームと細川コレクション展のコラボレーションを通して、従来にはない県民のニーズを発掘する取り組みを行った。 ○ <グローバル化への対応> 展覧会スケジュールの翻訳に当たっては、外国語でも違和感のない文章となるよう、ネイティブの翻訳者が在籍する企業に業務委託した。 ○ <withコロナ・postコロナ社会への対応> 多くのお客様に安心して来館していただけるよう、感染対策の徹底のため感染防止に係る表示等を見やすく設置した。
<p>取組による成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <総合美術館としての展覧会の充実> 令和4年度は知名度の高いテーマによる展覧会を誘致・開催することができた。しかしコロナ禍以後の巡回展企画の供給はまだ不安定であり、また企画の傾向も変化しているように見受けられる（大型スクリーンを使用した「動くゴッホ展」など）。状況の推移に注視する必要はあるが、引き続き安定的な展覧会企画の供給路の確保が課題となる。また同時に、来館者数は少なくとも、地元根差した展覧会企画の館内での立案・実施も課題。 ○ <県民ニーズに対応した鑑賞機会の充実> 子どもに制作活動に親しんでもらいたいという親側からのニーズに応えた「子ども美術館」に比して、「かぞくでアート」は親子でアート鑑賞を楽しむという点で、美術館側から新たなニーズを作り出す取り組みと位置づけられる。7回のワークショップに計134名、8回のセミナー、講演会に計287名が参加したという結果から見ても、一定の反応があったと考えられる。 ○ <グローバル化への対応> 令和4年度末ごろより、二の丸周辺を訪れる外国人観光客が増加する傾向がみられた。キャプションなどの多言語化対応が課題。 ○ <withコロナ・postコロナ社会への対応> 新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行し、マスクの着用が個人の判断となるなど、感染症を取り巻く状況の変化に対応して、来館者が安全安心に展覧会等を楽しめる環境を継続して整えることが必要。

課題に対する
今後の対応

- <総合美術館としての展覧会の充実>
学芸員の育成及び展覧会企画会社からの積極的な情報収集に取り組むとともに、熊本の美術・歴史に関する調査研究を行い、展覧会企画につなげていく。
- <県民ニーズに対応した鑑賞機会の充実>
様々な年代に対応したイベントに今後も継続的に取り組んでゆく。
- <グローバル化への対応>
Wi-Fi環境を活用した翻訳アプリ等の活用を試行的に実施し、館内掲示のあり方などの検討を進める。
- <withコロナ・postコロナ社会への対応>
新型コロナウイルスの感染拡大情報やその他の感染症の状況等を把握しつつ、国や県等の方針に沿って、館内の感染症予防対応を適宜見直ししながら必要な感染防止対策を継続していく。

自己評価シート

1	【展覧会・教育普及】 子どもの頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館
(2)	教育普及活動

1 事業の実績

- ① <学校や地域と連携した活動の充実>
- ・熊本県立第二高等学校と連携し、鑑賞ツール「アートカード」を作成。イベントでの活用、学校等への貸出を開始した。また、家族向けイベントや教員向け研修をとおして普及に努めた。
 - ・「かぞくでアート」を開催（4回）。内容は、家族で鑑賞活動を楽しむ「アートカード」を活用したワークショップと甲冑レプリカを活用したワークショップ。また、制作活動を中心とした小中学生向けワークショップ「子ども美術館」を3回実施した。
 - ・学校と連携した活動として、出前形式では、「スクールミュージアム」（15校）を実施。受入形式では、子どもたちを美術館へ招待する事業「ミュージアムバス」を実施。3校（バス4台）を受入れた。
 - ・博物館ネットワークセンター、熊本県立教育センター、熊本県図工美術研究会と連携し、教員向け研修（3回）及びワークショップ（1回）を実施した。
 - ・学校団体利用や子どもたちが展覧会をより身近に楽しめる手立てとして、展覧会に合わせたワークシート（3種類）を作成した。
 - ・イベント参加者と共同で作成した「巨大点描アート」をSNSスポットとして設置した。
- ② <幅広い年齢層が美術に親しむための取組み>
- ・サポートボランティアは大学生から80代の幅広い年齢層が登録。イベント運営や図書・資料・ポスター等の整理・保管作業等に定期的に取り組んだ。
- *「展示の工夫」や「ニーズに合わせた講演会やセミナー」については1（1）<県民のニーズに対応した鑑賞機会の充実>参照。
- ③ <インターネット美術館の推進>
- コロナ禍でも自宅で楽しめる「おうちで美術館」をホームページやTwitter、Instagram、YouTubeで配信。所蔵作品ぬりえの配信や、当館の収蔵品を紹介する「ポケット学芸員」の活用など、自宅でも美術を楽しめる活動に取り組んだ。

2 工夫と成果・課題等

<p>取組において工夫した点</p>	<p>① <学校や地域と連携した活動の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞ツール「アートカード」の使い方説明がわかりやすく親しみやすいものになるよう説明用4コママンガ制作を第二高校生に依頼。ボランティアとしてワークショップにも参加してもらうことでより親しみやすい雰囲気となった。 ・鑑賞教育普及のため、販売するだけでなく、「アートカード」を学校等への貸出を行うこととした。 ・ワークシートを作成するだけでなく、ワークシートの内容を告知するチラシを別途作成。県内全小中学校、特別支援学校等に配布し、周知を図った。 <p>② <幅広い年齢層が美術に親しむための取組み></p> <p style="padding-left: 2em;">* 1 (1) <県民のニーズに対応した鑑賞機会の充実>参照。</p> <p>③ <インターネット美術館の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・細川コレクションI「黒の魅力」で展示した国重文《黒き猫》の高精細画像を使用した動画「4Kでイッピン!」を作成・公開するなど、美術品やイベント等についてSNSで発信。 ・「ポケット学芸員」を学校でも活用できるように使い方動画を作成し、YouTubeにて配信。
<p>取組による成果と課題</p>	<p>① <学校や地域と連携した活動の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当館オリジナル教材「アートカード」を作成したことで、学校やイベント等で当館所蔵品や鑑賞の楽しさを分かりやすく伝えやすくなった。 ・今後も、鑑賞ツール「アートカード」の普及を継続的に行う必要がある。 ・また、学校との連携については、第二高校からは積極的に当館の活動を受入れてもらえる状況があるが、他の学校については、それぞれ事情もあり、当館活動における連携を模索している状況。 <p>② <幅広い年齢層が美術に親しむための取組み></p> <p style="padding-left: 2em;">* 1 (1) <県民のニーズに対応した鑑賞機会の充実>参照。</p> <p>③ <インターネット美術館の推進></p> <p>動画の作成には素材データをはじめとした準備段階から時間を要するため、定期的に公開できる数に限りがある。</p>
<p>課題に対する今後の対応</p>	<p>① <学校や地域と連携した活動の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞ツール「アートカード」の普及のため、イベントでの活用、さらに教員向け研修を行う。 ・第二高校以外の学校でもペーパーバッグ作成、またアートカードを活用した鑑賞教育等で連携を図っていく。 <p>② <幅広い年齢層が美術に親しむための取組み></p> <p style="padding-left: 2em;">* 1 (1) <県民のニーズに対応した鑑賞機会の充実>参照。</p> <p>③ <インターネット美術館の推進></p> <p>来館動機につながるバラエティーに富んだ配信を行うべく、職員全員でコンテンツを作成・配信できる体制づくりに取り組む。</p>

自己評価シート

2	【美術品等の収集・保管・研究】 熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館
(1)	コレクションの充実

1	<p>事業の実績</p> <p>○ <美術品等の計画的な収集・保管・公開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「熊本県立美術館収集方針」に基づき、収集活動を行った。戦後熊本の重要な画家・藏本朝美《田園》など購入1点に加え、寄贈4点の計5点を収集した。 ・収蔵品保管については、常時温湿度を記録し、IPM、空気環境調査を定期的に行うことで、作品保管・展示環境の維持に努めた。また、収蔵品情報をデータベース化し、令和3年度収集分までの全ての収集作品情報をインターネットで公開した。
---	--

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<p>○ <美術品等の計画的な収集・保管・公開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集については、美術商、コレクター、周辺美術館・博物館等から積極的に候補作品に関する情報を収集した。また、当館での調査・研究の蓄積を活かすべく、以前から当館に収蔵されていた関連作品や、過去の展覧会で借用・展示した関連作品の情報を精査し、収集候補作品の価値・重要性を見極めた。
取組による成果と課題	<p>○ <美術品等の計画的な収集・保管・公開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本の美術史を研究する上で重要な作品を所蔵することになり、コレクション展示の幅が広がった。また各収集委員からは、作品の質や収集の意義に関して高い評価を得ることが出来た。 ・データベース化により収蔵品管理や活用の効率が向上したが、システム応用の幅が広いため、操作には習熟が必要。また、今後はコンスタントに新収蔵品の情報を登録・更新してゆく必要がある。 ・所蔵品や借用品が損傷することはなかったが、収蔵庫の空調フィルターや温湿度自記記録計など、保管管理に係る器具類の中には老朽化したものがある。
課題に対する今後の対応	<p>○ <美術品等の計画的な収集・保管・公開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースシステムの操作方法の習熟に努めるとともに、新収蔵品情報に関する登録作業のルーティン化を図る。 ・令和4年度に行った保管管理に係る器具類の現状把握を基に、優先度の高いものから順次予算を確保し更新していく。

自己評価シート

2	【美術品等の収集・保管・研究】 熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館
(2)	収蔵品の調査研究・成果の公開・活用

1	<p>事業の実績</p> <p>○ <調査研究等> 当館に保管する永青文庫所蔵の鎧・兜などの武器武具、能面・能道具、大名道具他美術工芸品(1,470件)に関して、展覧会での公開活用を見据えた総合的な調査を継続的に実施し、令和4年度末にすべての預かり品について詳細な調査と撮影を完了した。 当館保管の永青文庫所蔵資料に対する理解を深めるとともに展示活用を図るため、関連する文書資料の調査を熊本大学附属図書館で実施した。</p> <p>○ <研究成果の公開・活用> 永青文庫所蔵資料調査の成果として、「永青文庫所蔵資料調査報告書第四集」を刊行し、図書館・博物館・美術館をはじめとした社会教育施設に送付した。 永青文庫所蔵資料調査の成果の一部を「最後の藩主夫人・峯君」をはじめとする細川コレクション展において公開した。</p>
---	---

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<p>○ <調査研究等> 令和4年度中に資料調査と撮影を完了するために、重要度の低い資料については簡易的な撮影に留めるなど、業務の効率化を図った。</p> <p>○ <研究成果の公開・活用> 永青文庫所蔵資料調査報告書刊行にあたり、HPなどでの公開を見越して、紙媒体に加えてPDFデータを作成した。</p>
取組による成果と課題	<p>○ <調査研究等> 当館保管の永青文庫所蔵資料の調査を完了。その全体像が明らかとなったことにより、今後の展示活用の幅が広がった。一方、東京保管分の資料については詳細不明なものが多く、今後も継続的な調査研究が必要となる。</p> <p>○ <研究成果の公開・活用> 永青文庫所蔵資料調査報告書を刊行したが、発行部数に制限があり限られた施設のみに配布しているため、より広範に永青文庫資料の魅力を発信するため継続的な取り組みが必要。</p>
課題に対する今後の対応	<p>○ <調査研究等> 展覧会開催のための事前調査の機会等を活用し、今後調査データを蓄積していく。</p> <p>○ <研究成果の公開・活用> 調査報告書のデータの一部を県HPで公開する。また、細川コレクション展の展示を通じて調査成果の公開を図る。</p>

自己評価シート

2	【美術品等の収集・保管・研究】 熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館
(3)	県内美術品等の調査研究と文化財保存活動

1 事業の実績

『永青文庫所蔵資料調査報告書 第4集』の刊行、細川コレクション開催に向けた熊本大学附属図書館寄託の細川家文書の調査や、熊本県に所在する平安時代の仏像彫刻と関係がある大分県天福寺奥の院仏像群の調査や、球磨郡山江村、宮崎県からの依頼による仏神像調査などを行った。また、文化財保存活動の一環として、玉東町・稲佐熊野神社の社殿修理にあたり、安置されている神像の一時避難作業への立会いとそれに付随した調査を実施した。

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の文化財保存活動や展覧会事業に役立てるため、名称や寸法だけではなく詳細な調書作成や、美術品の形状をはっきりと把握できるデジタル写真の撮影を心掛けた。 ・古文書調査に当たっては、文書それぞれについて丁寧に分析し、文書同士の照合により細川家の活動について具体的に明らかにできるように心がけた。そして、展覧会では美術工芸品と共に紹介することで、視覚的にも細川家の歴史が理解できるようにした。
取組による成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・永青文庫所蔵の絵画・彫刻等の資料438点の調査を実施して報告書を刊行し、平成19年度から継続していた「永青文庫所蔵資料調査事業」を完了。 ・未調査資料を多く見出し、展覧会での初公開につながられたことで、資料の希少性や意義を内外に共有することができた。 ・前回調査から約30年ぶりの調査を実現できた文化財もあり、最新の状況を所蔵者、地元自治体と共有することができた。 ・山江村など、山間所在の文化財情報が得られたことで、将来の災害時における文化財レスキューに備えた基礎情報を地元自治体と共有し、集積することができた。 ・調査成果については、将来の展覧会や災害時における文化財レスキューに役立てるべく、情報の管理・更新が必要。
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・個人宅や寺社等、美術館外にある美術品・文化財をめぐる状況は日々変化している。継続的に調査・撮影を行い、情報の更新に努める。また、情報の開示・公開に際しては、個人情報の漏洩がないよう注意する。

自己評価シート

2	【美術品等の収集・保管・研究】 熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館
(4)	専門性を支える人材の確保

1	<p>事業の実績 教育普及担当学芸員を採用。</p>
---	---------------------------------------

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・教育普及担当学芸員については、当館でのイベントの他、作品の返却業務、浜田知明室等での展示に参画させることにより、当館での業務に関する理解を促した。
取組による成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育普及担当学芸員としては、まずは当館のコレクションについて広く学ぶことが重要である。そのため、令和4年度にはコレクション展や浜田知明室での展示業務への参画を通して、コレクションについての理解を深める機会を設けた。 ・教育普及活動については当館にも過去の実績が蓄積されてはいるものの、他県ではより多様な取り組みが行われている。他館での取り組み事例について学ぶことが必要。
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・教育普及活動や展覧会業務の補助を通して実務能力を養いつつ、近隣他県の美術館での視察や、研修会・研究会への参加をとおして、専門性を高められるよう育成していきたい。

自己評価シート

2	【美術品等の収集・保管・研究】 熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館
(5)	専門性を高める取組み

1 事業の実績

- ・各専門分野に関する研究会、及び教育普及活動に関する研修会へ参加した。
- ・県内外で開催されている展覧会の視察を行った。
- ・他館学芸員との共同調査に参加した。

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き始めたことから、遠隔地に赴くことが可能となったため、合同調査や研修へ積極的に参加した。 ・仏教美術に関しては、九州・山口の他館学芸員と共に、大分、山口、宮崎等で仏教美術に関する合同調査を実施。 ・教育普及に関しては、大阪で開催された全国美術館会議の教育普及研究部会に参加するほか、対話型鑑賞教育を実践する福岡市美術館でのボランティア活動に参加するなど、研修とは異なる独自の取組みを行った。
取組による成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員の専門性向上のためには、実物の作品はもとより、新たな展覧会手法や最新の動向に触れることが必須である。コロナ禍の収束により、遠隔地に直接赴くことができるようになったことの意義は極めて大きい。ただし遠隔地に赴くためには、費用はもちろんのこと、そのために時間を確保することも必要になる。予算と機会の確保が課題。
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や他館の取組の情報を幅広く収集し、効率的に研鑽できるよう努める。 ・出張等の機会にあわせ、用務先地域の展覧会等を視察できるよう努める。

自己評価シート

3	【地域活性化・交流促進】 地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館
(1)	熊本城周辺文化観光施設としての活動

1 事業の実績

<ul style="list-style-type: none"> ・熊本城活性化協議会に参加し、各施設の状況把握や情報共有を図った。 ・「春のくまもとお城まつり」関連企画としてクイズラリーに参加。美術館別棟展示室にクイズ問題を設置し、参加者に楽しんでいただくことで、美術館の魅力を知ってもらうとともに熊本城関連イベントの実施に貢献した。 <p>*ユニークメニューに関する取組については4-(2)に記載。</p>

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	-
取組による成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本城活性化協議会に参加することで、各施設のイベントや入場者数等の情報共有ができた他、関連イベントの実施へ向けた担当者同士のつながりができた。また、会議出席者はメールで一斉連絡ができるため、災害時等には各施設の情報共有に活用できるようになった。 一方で、連携したイベント等の実施については、新型コロナウイルス感染症の影響等もあり取組みが限定的であるため、今後、連携イベントの強化について検討する必要がある。
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本城周辺施設と一体となったイベント等、人流が循環するような枠組みを定型化できるよう、施設を周遊するイベント等に積極的に参画していく。

自己評価シート

3	【地域活性化・交流促進】 地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館
(2)	団体集客の推進

1 事業の実績

<p>・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、団体集客は困難な状況だったが、年度後半には旅行会社を介した団体客の利用申込みがあった。</p>
--

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	—
取組による成果と課題	・新型コロナウイルス感染症の影響が残る中ではあるが、人流は回復し始めており、団体集客のために熊本城活性化協議会等を活用し、積極的に教育旅行等の情報収集を行い、活用していく必要がある。
課題に対する今後の対応	・様々な媒体を活用し情報収集を行うとともに、展覧会のコラボ企画等の機会を捉え、旅行会社等との連携を図り、個人・団体ツアーの受け入れを進める。

自己評価シート

3	【地域活性化・交流促進】 地域と協働し、魅力あるまちづくりを推進する美術館
(3)	美術館活動の情報発信

1 事業の実績

<ul style="list-style-type: none"> ・各展覧会のポスター・チラシ、年間スケジュール、広報誌『View』を作成して、県内の学校やホテル、県外の美術館等に配布し、展覧会や美術館活動の広報に取り組んだ。 ・英語版や中国語版、ハングル版の年間スケジュールを作成して美術館HPに掲載し、日本語話者以外への広報に務めた。 ・新聞・雑誌・テレビ・ラジオなど約40の情報媒体へ展覧会情報等を提供することで、当館の発行物及びウェブサイトに限らない情報拡散に務めた。 ・インターネットを利用した情報発信において、SNS分野でTwitterとInstagramの活用の充実を図った。更新頻度の向上に取り組むとともに、記事内容を工夫することにより、利用者の関心を高める取り組みを行った。また、新型コロナウイルスの感染再拡大による臨時休館をきっかけとして開始した「おうちで美術館」事業では、美術館のYoutube公式チャンネルにおいて、展覧会や美術館などについて紹介する動画を公開した。 ※令和5年3月31日現在でTwitter（フォロワー数：5,659人）、Youtube（チャンネル登録者数：45人）、Instagram（フォロワー数：1,215人（R5.5.13現在））。 ・「ジブリパークとジブリ展」においては情報発信の即応性を生かし、周辺駐車場の利用状況や、チケット購買情報などの情報を随時発信した。
--

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS（Twitter及びInstagram）では、展覧会やイベントに関する記事のみならず、展覧会の裏側を伝える記事を投稿することで、若年層に見てもらえるよう情報発信の内容を工夫した。 ・「おうちで美術館」事業では、美術館や展覧会場を紹介する動画や、イベントの様子を撮影した動画を作成し、YouTube上で公開。コロナ禍収束後の来館意欲に働きかけた。
取組による成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層に人気のある「刀剣乱舞 ON LINE」とコラボして開催した「雅 細川家の歴史と美 第1部」においては、SNSによる情報発信が絶大な効果をみせ、細川コレクション単独では初めて来館者1万人を達成した。 ・更新頻度向上のための、動画等コンテンツの作成には素材データの用意をはじめとした準備段階から時間を要するため、定期的に公開できる数に限りがある。 ・効果的な情報であっても、フォロワー数が依然として少ない状況にあるからか、拡散能力に課題を感じる場面があった。
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・来館動機につながるバラエティーに富んだ配信を行うべく、職員全員でコンテンツを作成・配信できる体制づくりに取り組み、更新頻度をさらに向上させる。 ・更新頻度向上によりフォロワー数のさらなる増加に取り組む。

自己評価シート

4	【環境・施設設備】 安全・安心で安らぎと憩いの場を提供する美術館
(1)	施設の適切な管理と快適な環境の整備

1	<p>事業の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <安全・安心の確保> <ul style="list-style-type: none"> ・警備・受付・監視・設備管理等担当者と情報共有、連携を図りながら安全・安心で快適な館内環境を整えるよう務めた。 ・長年の課題でもあった法面の樹木管理については、関係機関と協議を行い、課題整理を進めた。 ○ <ユニバーサルデザインの推進> <ul style="list-style-type: none"> ・老若男女を問わず多数の来場者となったジブリパークとジブリ展において、守っていただきたい撮影ルールなどが誰にでもわかりやすい形で表示を作成した。 ○ <誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の創出> <ul style="list-style-type: none"> ・館内各所を点検し、設置物の見直し箇所等を洗い出し、短期～長中期までの対応案を整理。玄関をはじめ館内に置かれていた不要な物品の撤去や表示の改善、チラシの配架方法の変更等を行った。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の一環として、抗菌効果があり、消毒も容易になる素材へ椅子座面の張り替えを行った。 ○ <付帯施設> <ul style="list-style-type: none"> ・カフェにおいて、展覧会とのコラボメニューを提供し、好評を得た。 ○ <ミュージアムショップの充実> <ul style="list-style-type: none"> ・所蔵作品のポストカードをはじめ、美術館オリジナルクリアファイル、ポスターや図録など約200点のミュージアムグッズを販売した。 ・ショップ充実の一環として一筆箋（歌仙兼定）・ポスターに加え、県内のアールブリュット作家のハガキやトートバッグ等を新たに商品に追加するとともに、ミュージアムショップの値札をはじめとした表示物の統一化を行い、魅力アップを図った。
---	--

2 工夫と成果・課題等

<p>取組において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <安全・安心の確保> <ul style="list-style-type: none"> ・開館前に受付・監視等、日々の業務の中で各担当が、気になる点や発生した案件・その対応など互いに情報共有を図るためのミーティングを毎日実施し、早急に必要な対応ができるような体制を構築した。 ○ <ユニバーサルデザインの推進> <ul style="list-style-type: none"> ・表示作成の際、写真や「○」「×」の記号を使用するなど、小さな子どもから高齢者まで一目で理解できる形とした。 ○ <誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の創出> <ul style="list-style-type: none"> ・館内各所の点検の際は、館員全員でチェックを行うとともに、チラシの配架ルールを明確にするなど継続的な取組ができるよう職員間の共通認識化を進めた。 ○ <付帯施設> <ul style="list-style-type: none"> ・カフェにおけるコラボメニューの提供において関係機関との調整を入念に行った。 ○ <ミュージアムショップの充実> <ul style="list-style-type: none"> ・表示物の統一化においては、美術館の建物の色調にあうよう茶系をメインとした。
--------------------	---

<p>取組による 成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <安全・安心の確保> ・多くのお客様が来館された際にも、引き続き安全・安心で快適な環境を整えられるよう、警備・受付・監視・設備管理等担当者 と連携を深めていく必要がある。 ○ <ユニバーサルデザインの推進> ・注意喚起に関する表示については効果が感じられたが、既存のサインについては、トイレやエレベーターの場所を確認されるな ど、館内サインが認識されづらい状況が継続している。 ○ <誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の創出> ・来館者向けの掲示物については、建物の色調への配慮など一定のルールを設けたことで美術館という空間の演出に効果がみられ た。 ・館内の設置物の整理等が一過性のものにならないよう、設置物の取扱ルール等を職員間で継続的に認識していく必要がある。 ・ポストコロナに向けたコロナ禍前の状況も踏まえたテラスの活用などを検討をする必要がある。 ○ <付帯施設> ・カフェにおけるコラボメニューの提供により利用者増となったが、来客の多い時間帯の待合方法などの対応について、カフェ運 営会社と事前調整を行っていたが、対応の徹底が図られないなど課題が残った。また、利用者増に向け、展覧会に合わせたメ ニューの提供などを継続的に行えるよう連携が必要。 ○ <ミュージアムショップの充実> ・「ミュージアムショップ」というキーワードで想像されるイメージとの合致と、より「ショップ」としての印象が高まるような 工夫が必要。
<p>課題に対する 今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <安全・安心の確保> ・情報共有を更に深めるとともに、来館者視点での場の提供、改善に務めていく。 ○ <ユニバーサルデザインの推進> ・他県施設また、他の施設等を参考に美術館にふさわしいサインまた誰にも伝わるサインを検討していく。 ○ <誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の創出> 建築物としても価値のある施設であるため、資料等の設置については、設計者である前川國男氏のデザインやコンセプトを意識し てレイアウトを行うなど、美術館という空間に配慮した取扱いを継続する。 ○ <付帯施設> ・基本的なお客様対応をはじめ、メニューの開発等についてもカフェ運営会社と協議し、イベント時の対応等を明確化する。 ○ <ミュージアムショップの充実> ・古い商品の見直しや新たな商品の作成により、グッズを充実させるとともに、「ショップ」としてのイメージ向上を図り、来館 者の満足度を上げる。

自己評価シート

4	【環境・施設設備】 安全・安心で安らぎと憩いの場を提供する美術館
(2)	施設の有効活用

1	<p>事業の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間企業と連携し、「熊本城を中心とする細川家関連遺産群を活用した『シン・熊本』観光コンテンツ造成事業」の一環として「永青文庫プレミアムガイドツアー」を実施。一般人の立ち入りが制限されているバックヤードへの立ち入りの他、設備等についての解説も付いた特別な鑑賞ツアーを行った。 ・熊本国際観光コンベンション協会と連携し、レセプション形式でのユニークベニュー実証実験を実施。学芸員による展覧会案内の後、ケータリング業者による食事を楽しみながら、アーティストの生演奏、山鹿灯籠踊りを鑑賞していただくレセプションを試験的に行った。
---	--

2 工夫と成果・課題等	
取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニークベニュー実証実験においては、会場が美術館であるというプレミアム感を最大限に活用するため、展覧会鑑賞を学芸員による解説付きで実施した。また、美術館の運営に支障が出ないように、提供するメニューへの配慮や実施後の清掃の徹底について、熊本国際観光コンベンション協会と連携しながら実施した。
取組による成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ケータリングを取り入れての施設活用は初めての試みであったため、今後のユニークベニュー関連イベントを行う上での貴重な経験となった。今後の課題としては、ユニークベニューの実施要領の整備など、美術館としての具体的な実施ルール等を定める必要がある。
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・他の美術館や博物館等の実施事例等を参考に、当館における実現可能性や条例との整合性を整理したうえで実施要領を定める。また、並行して、実施を希望する企業等と連携し、実現可能なものから試験実施を含め、ユニークベニューの取組を進め、施設の有効活用を行うとともに新たな誘客につなげる。

自己評価シート

4	【環境・施設整備】 安全・安心でやすらぎと憩いの場を提供する美術館
(3)	来館者満足度の向上

1 事業の実績

○	<p><展覧会やサービスに関する評価に基づく改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各期の展覧会に対するアンケートを実施することによって来館者の評価や要望を把握しながら（令和4年度は合計406件）、随時、美術館運営の改善に反映させるとともに、作品展示の充実やわかりやすい解説、子ども向け展覧会ワークシート作成、鑑賞者と作る参加型展示の取り組みへ反映させた。結果として、通期での展覧会に関する満足度のうち「展覧会内容について」の高評価（5段階評価中、5及び4）は86.5%、「展覧会解説について」の高評価は80.9%となった。 ・来館者の意見をより具体的に把握するため、アンケート内容を見直し、「当館のサービス全体」について「スタッフ、ミュージアムショップ、カフェ、案内表示」等の項目を追加した（令和5年1月から）。
---	---

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<p>○ <展覧会やサービスに関する評価に基づく改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・解説に係る御意見を多くいただくことから、学芸員目線で作品の多様な見方を語る解説の設置を継続するとともに、これまでの来館者の御意見を踏まえ、展示内容を工夫した。例えば、刀剣の展示にあたり、拵と刀身の展示時期が重ならないため、一方のパネル展示を行うなど。 ・アンケートの御意見を随時運営に反映できるよう、改善に関する意見は速やかに館内で共有を図り、スタッフの接遇や館内の整備、カフェの接客などの改善につなげた。
取組による成果と課題	<p>○ <展覧会やサービスに関する評価に基づく改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「印象派との出会い」展や「美の旅」展が好評であったが、西洋画を期待する来館者などからは「熊本でなかなか見られない作品の展覧会の開催してほしい」や「もう少し多く良い展示をしてほしい」といった他館のコレクション展などに関する要望もみられた。 ・「ジブリパークとジブリ」展は予想外の多くの来場者があり、事前予約制・時間による入場者数設定を行ったにも関わらず、会場内混雑や写真撮影等に係る多く御意見をいただくこととなった。一方で、令和4年度の展覧会を通じて、多数の来館があったことにより待機列の管理などのノウハウを蓄積することができた。 ・オンラインゲーム「刀剣乱舞ONLINE」とのコラボが好評を博し、カフェのコラボメニューやグッズについて高評価のコメントが多く寄せられた。また、刀剣やイベントを目的として多数の来館者が訪れたが、「刀剣を目的として来館したが、他の展示がたいへんすばらしく、今後も来館したい」といったコメントを多数いただき、コラボをきっかけとして当館の展示などの魅力を知っていただけた。

課題に対する
今後の対応

- <展覧会やサービスに関する評価に基づく改善>
 - ・展覧会企画会社等からの情報収集に積極的に取り組むなど、来館者のニーズにあった展覧会の企画が可能となるよう取組みを進める。
 - ・一日に2,000人を超える来館者が見込まれる展覧会等における事前予約制の導入や運用、待機列管理や写真撮影のあり方、注意喚起の方法など、いただいた御意見や習得したノウハウを今後の来館者対応に活かしていく。
 - ・令和5年度も、カフェでの展覧会関連の特別メニュー提供、ミュージアムショップの新グッズ制作などを行い、展覧会を多角的に展開させる。

自己評価シート

4	【環境・施設設備】 安全・安心で安らぎと憩いの場を提供する美術館
(4)	経営的視点による運営・管理

1	事業の実績
○	<p><収益の向上等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「印象派との出会い」展、「美の旅」展、「ジブリパークとジブリ」展など、知名度のあるテーマによる特別展を開催した。 ・「刀剣乱舞ONLINE」とコラボした展覧会の開催及びグッズの制作・販売を実施した。 ・新たな協賛先の開拓を行った。

2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<p>○ <収益の向上等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知名度の高いテーマによる展覧会を開催するのみでなく、注目を引く広報物の作成やターゲットを絞った広報活動を行うことで、来館者増及び収益性の確保につとめた。 ・「雅—細川家の歴史と美」展ではSNSによる広報に注力。オンラインゲームに親しむ層への訴求力を持たせた。 ・協賛候補企業に聞き取りを行い、協賛候補企業が求めるイメージに応えることができるようつとめた。また、協賛によるメリットがわかりやすいように説明資料の定型化を図った。
取組による成果と課題	<p>○ <収益の向上等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知名度の高いテーマによる展覧会は、マスコミを經由して美術館側に提案される場合が多いため、企画の供給がやや不安定である。安定した企画の供給と供給路の確保が課題。 ・大勢の来館者が押し寄せた場合の、館内へのスムーズな誘導が課題。「美の旅」展、「雅—細川家の歴史と美」展などにおいては、混雑する状況がみられた。ただしこれは、「ジブリパークとジブリ」展において、監視員のほかイベント対応に慣れている誘導スタッフを雇用したことにより、一部解決するなど、ノウハウの蓄積につながった。
課題に対する今後の対応	<p>○ <収益の向上等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な展覧会企画の確保に向け、地元マスコミのみならず、全国区のマスコミ事業部及び企画会社との関係性の構築を継続していく。